

平成23年産及び24年産米 取引の状況について

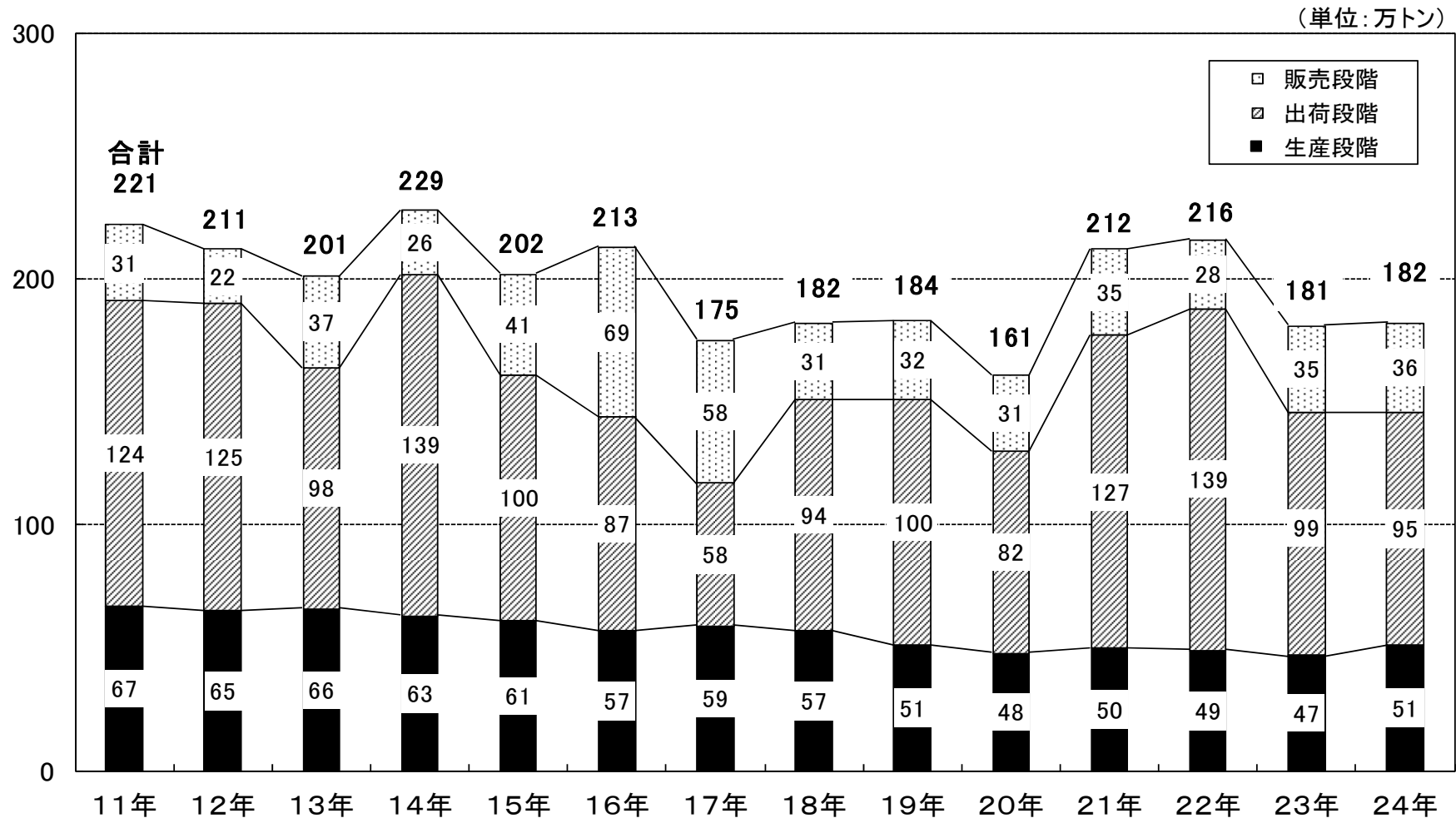
平成24年10月

農林水産省

目 次

1	民間流通における6月末在庫の推移	1
2	政府備蓄米の6月末在庫の推移	2
3	政府備蓄米の在庫の状況	3
4	平成23/24年及び24/25年の米の需給見通し	4
5	24年産米の政府備蓄米の買入(事前契約)	5
6	平成24年産水稻うるち玄米の1等比率	6
7	平成24年度のSBS輸入の入札状況	7
8	米の相対取引価格の月別全銘柄平均の推移(平成18年産～23年産)	8
9	産地品種銘柄別相対取引価格の推移(平成23年産)	9
10	平成23年産米の相対取引価格(平成24年8月分)	10
11	米の流通の状況(16～22年産米)	11
12	家庭における米購入量等の推移	12
13	23年産米の流通状況について	15
	(参考1) 農業予算に関する論点整理(抜粋)	16
	(参考2) 東日本大震災を踏まえての災害時に対応した備蓄の検討	17
	(参考3) 平成24年産加工用米の供給不足分に対する備蓄米の販売について	18

1 民間流通における6月末在庫の推移



資料:農林水産省調べ

注:1)うるち玄米及びもち玄米の値である。

2)各年の民間在庫量において、

①平成16年以降については、年間玄米取扱数量500トン以上の業者(販売・出荷段階)の数量である。

②平成15年については、

・販売段階の在庫量は、旧登録卸売業者の年間玄米取扱数量500トン以上、旧登録小売業者の1,000トン以上の業者の数量である。

・出荷段階の在庫量は、年間玄米取扱数量500トン以上の業者の数量である。

③平成14年以前については推計値であり、

・販売段階の在庫量は、卸在庫量に小売在庫量(推計)を加えた数量である。

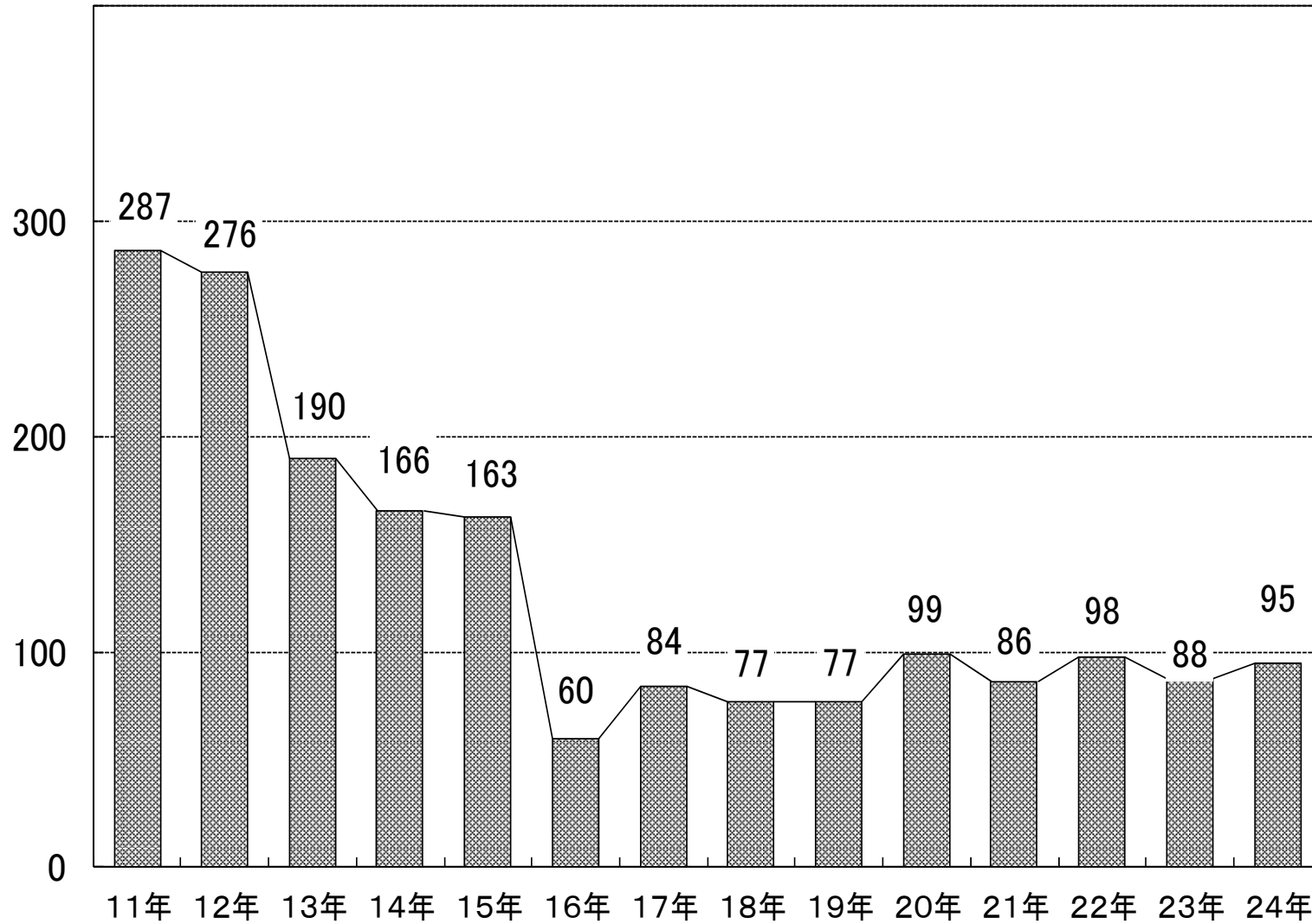
・出荷段階の在庫量は、系統在庫量に非系統在庫量(推計)を加えた数量である。

なお、生産段階の在庫量は、「生産者の米穀現在高等調査」(平成22年以降は「生産者の米穀在庫等調査」)を基に算出した在庫量から精米在庫量(推計)を控除した玄米在庫量である。

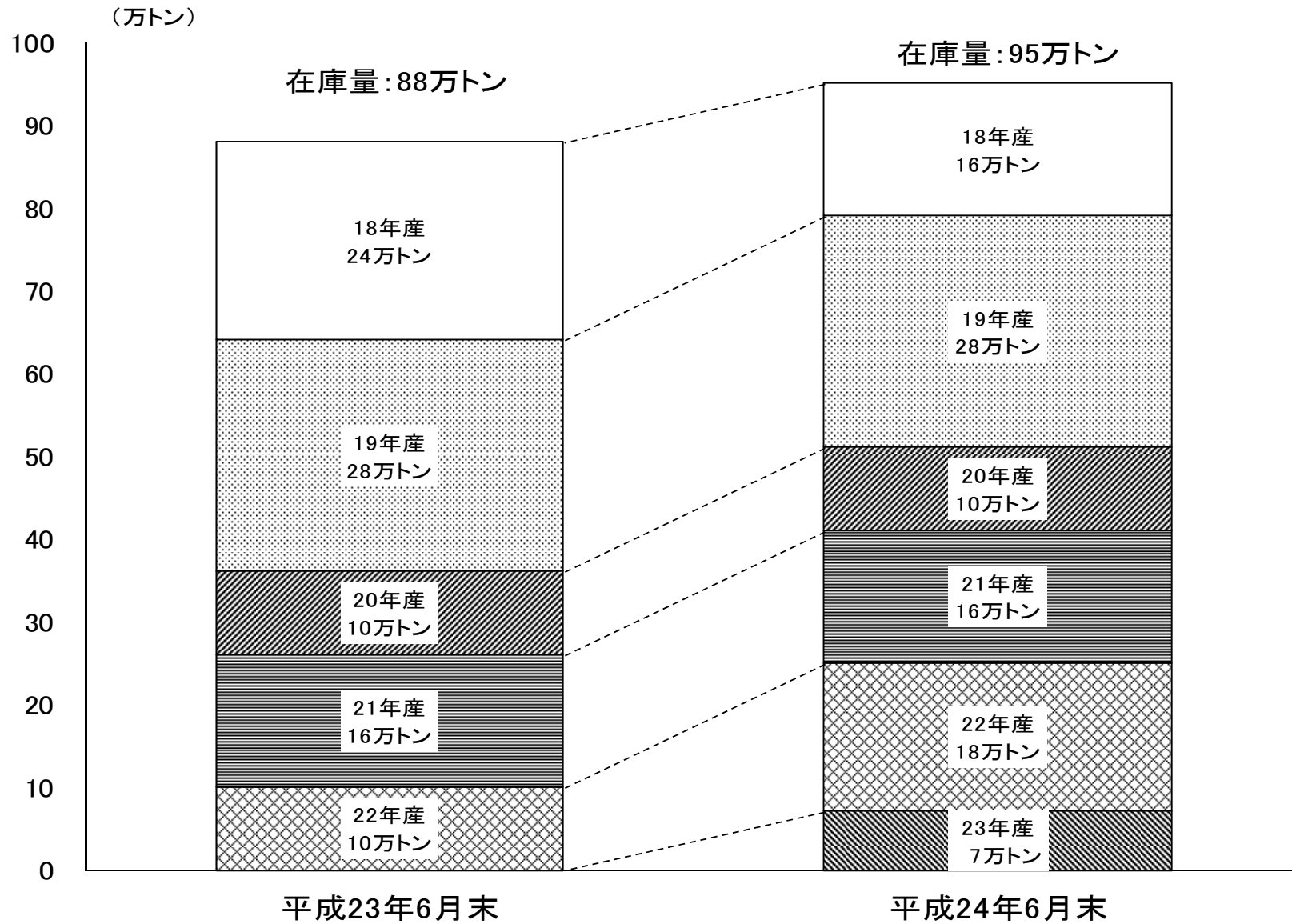
3)ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

2 政府備蓄米の6月末在庫の推移

(単位:万トン)



3 政府備蓄米の在庫の状況



資料：農林水産省調べ

注：1) うるち玄米の数量である。

2) 平成24年6月末在庫は、本年3月に、(社)米穀安定供給確保支援機構が所有する販売環境整備米8万トン(22年産)を買い入れ、4月以降、その代替として備蓄米4万トン(18年産)を飼料用に販売した後の値である。

3) ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

4 平成23/24年及び24/25年の米の需給見通し

<23/24年の需給見通し>

【23年7月指針】

	主食用米等	
23年6月末在庫量	A	182
23年産米生産数量目標	B	795
原発事故による作付制限	C	▲5
地震・津波被害による生産量減少	D	▲9
県内市町村間調整・県間調整による生産量増加	E	12
平成23年産主食用米等生産量	F=B+C+D+E	793
供給量 計	G=A+F	975
需要量	H	805
24年産6月末民間在庫	I=G-H	170

【23/24年の備蓄運営】

	備蓄運営	
23年6月末備蓄量	A	88
23年産米買入数量	B	※20
平成23/24年非主食用販売量	C	※20
24年6月末備蓄量	D=A+B-C	88

注：※は仮置きした数量である。

【23年11月指針】

	主食用米等	
23年6月末在庫量	A	181
23年産主食用米等生産量	B	813
平成23/24年主食用米等供給量計	C=A+B	994
平成23/24年主食用米等需要量	D	805
平成24年6月末民間在庫量	E=C-D	189

(単位:万トン)

【23/24年の備蓄運営】

	備蓄運営	
平成23年6月末備蓄量	A	88
平成23年産米買入数量	B	※7
平成23/24年飼料用・援助用等販売量	C	※4
24年6月末備蓄量	D=A+B-C	91

注：※は予定数量である。

<24/25年の需給見通し>

【24年7月指針】

	主食用米等	
平成24年6月末在庫量	A	182
平成24年産米生産数量目標	B	793
平成24/25年の備蓄米代替供給量	C	4
平成24/25年主食用米等供給量計	D=A+B+C	979
平成24/25年主食用米等需要量	E	798
平成25年6月末民間在庫量	F=D-E	181

【24/25年の備蓄運営】

	備蓄運営	
平成24年6月末備蓄量	A	95
平成24年産米買入契約数量	B	8
平成24/25年備蓄米代替供給量	C	4
平成24/25年飼料用・援助用等販売量	D	※8
平成25年6月末備蓄量	E=A+B-C-D	91

注：※は仮置きした数量である。

注：平成24/25年備蓄米代替供給量は、①東日本大震災により、倉庫に保管されていた平成22年産米が被災し、これを平成23年産米で埋め合わせる形で供給が行われたこと、②特別隔離対策（100 Bq/kgを超える平成23年産米の特別隔離対策）の対象となる米が市場隔離されること、から供給量が減少したことに伴い、①及び②に見合う量4万トン（震災による倉庫被災分2万トン程度＋特別隔離対策による隔離数量2万トン程度）の代替供給を政府備蓄米から行う数量である。

5 24年産米の政府備蓄米の買入(事前契約)

【24年産米の政府備蓄米買入に係る見直しの概要】

1 入札時期の早期化

第1回の入札は24年1月19日に実施
(23年産米の第1回入札は23年2月25日に実施)

2 実績に基づく道県別入札枠の設定

23年産米の道県別落札実績を反映して、24年産米の道県別入札枠を設定

道県別枠: 74,540トン

対象道県: 23年産米の落札実績がある24道県

3 引渡時期の早期化

早期に落札したものは早期に引取り(24年11月下旬)
(23年産米は24年1月下旬から3月中旬迄に引取り)

【24年産備蓄米の各回毎の買入事前契約入札状況】

買入対象 米穀の産地	買入予定 数量	第1回 (1月19日)	第2回 (2月7日)	第3回 (2月21日)	第4回 (3月6日)	第5回 (3月19日)	第6回 (4月17日)	第7回 (5月22日)	第8回 (6月19日)	落札数量 累計
提示数量	200,000	200,000	181,629	139,701	125,285	119,990	119,478	117,986	117,021	
指定なし	125,460	2,004	11,571	3,730	3,648	309	1,492	965	411	24,130
道県別枠	74,540	16,367	30,357	10,686	1,647	203	-	-	-	59,260
合計	200,000	18,371	41,928	14,416	5,295	512	1,492	965	411	83,390

※ 岡山産の第1回落札残数量(30トン)、千葉産の第2回落札残数量(1トン)、長野産の第3回落札残数量(7トン)、三重産の第3回落札残数量(1トン)及び青森産の第4回落札残数量(12トン)については、最小申込数量(50トン)に満たないため、「指定なし」に繰り入れた。

【24年産備蓄米の買入予定数量と落札実績等】

<買入予定数量> <落札実績>

200,000トン

83,390トン

<落札価格>

落札加重平均価格

13,406円/60kg

注1 価格は、第1回～第8回入札までの全ての落札価格を加重平均したもので、包装代、消費税込みの価格。

注2 相対取引価格と比較する場合には、上記落札価格に流通経費等(消費地までの運賃、広告宣伝費、系統手数料等)600円～1,500円を上乗せする必要がある。

<買入予定数量及び落札実績の内訳>

(産地を指定しない枠)

125,460トン

24,130トン

(道県別枠)

単位:トン

産地	買入予定数量	落札数量
北海道	7,860	5,768
青森	2,400	2,388
岩手	5,680	5,149
宮城	5,700	3,952
秋田	13,230	9,595
山形	7,690	7,690
福島	1,320	52
茨城	90	90
栃木	2,500	1,848
千葉	100	99
新潟	10,120	9,614
富山	7,920	7,920
石川	1,120	810
福井	2,430	1,300
長野	100	93
三重	700	699
岡山	180	150
広島	1,020	603
山口	3,000	785
香川	590	0
愛媛	420	345
福岡	120	120
佐賀	190	190
熊本	60	0
合計	74,540	59,260

6 平成24年産水稻うるち玄米の1等比率

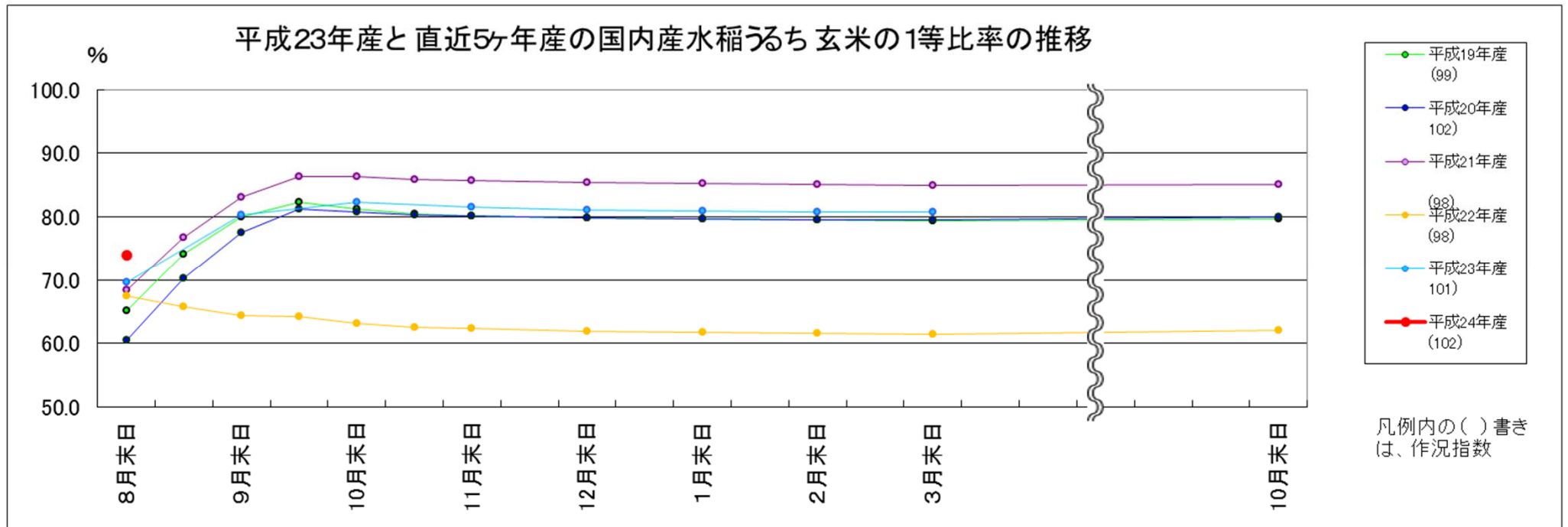
	平成24年産	平成23年産	22年産	21年産	20年産	19年産
8月末日	74.0	69.6	67.5	68.4	60.5	65.1
9月末日		80.3	64.4	83.0	77.5	80.0
10月末日		82.3	63.1	86.4	80.8	81.2
11月末日		81.5	62.4	85.7	80.2	80.2
12月末日		81.2	61.9	85.4	79.9	79.8
1月末日		80.9	61.7	85.2	79.7	79.7
2月末日		80.8	61.6	85.1	79.6	79.5
3月末日		80.6	61.4	85.0	79.5	79.4
最終	-	-	62.0	85.1	80.0	79.6

資料：農林水産省とりまとめ。

注1:「1等比率」とは、農産物検査法に基づく検査の結果、1等に格付けされた割合。

注2:「最終」は、翌年10月31日現在。

注3:1等比率については、4月以降変動が軽微なため、平成23年産より、翌年4月30日～翌年9月30日の間、公表しないこととした。



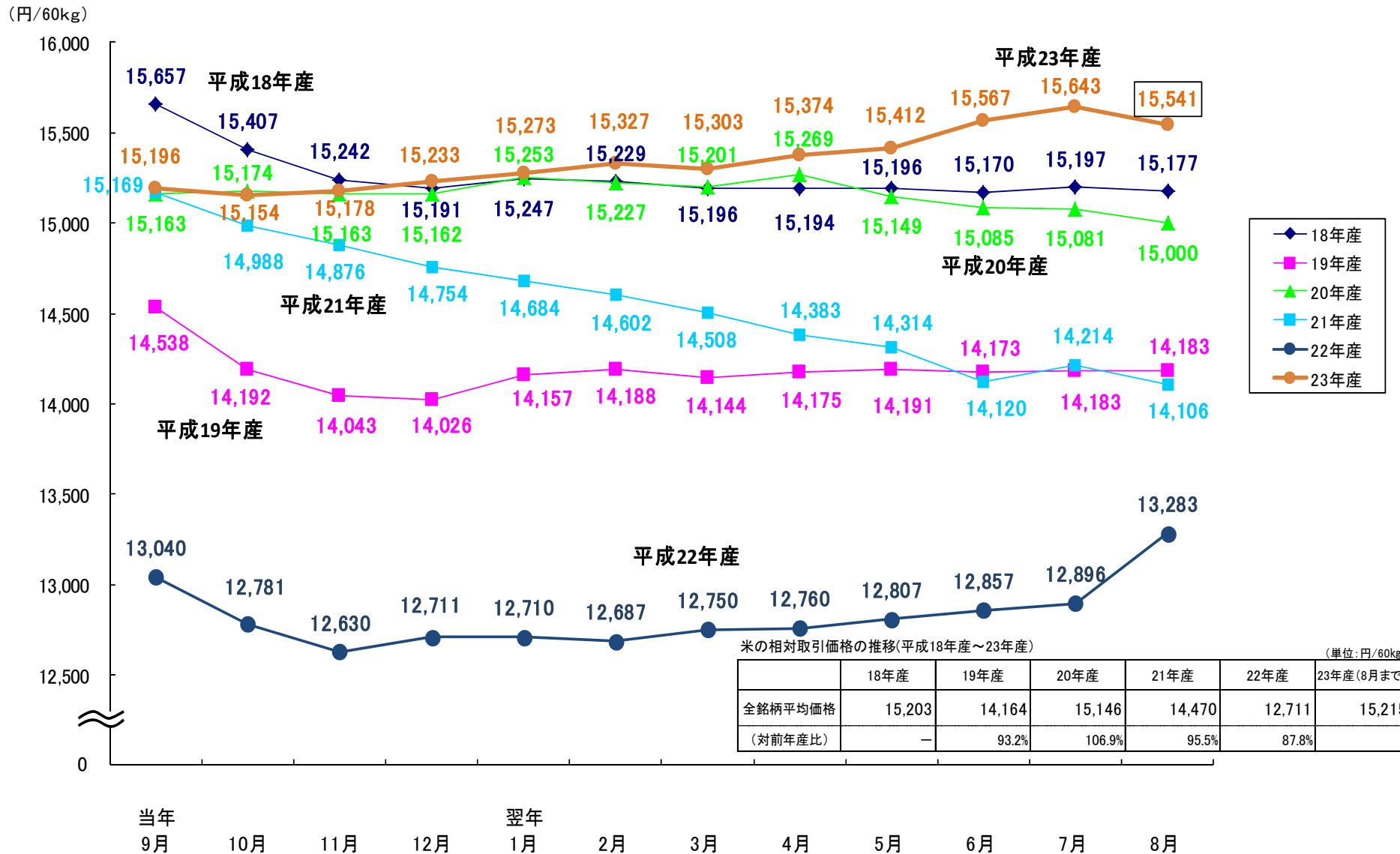
7 平成24年度のSBS輸入の入札状況

(単位:千実トン)

	計			内 訳					
	入札予定 数量	申込数量	落札数量	一般米枠			砕精米枠		
				入札予定 数量	申込数量	落札数量	入札予定 数量	申込数量	落札数量
第1回(24年 9月25日)	25.0	90.2	25.0	22.5	80.5	22.5	2.5	9.7	2.5
合 計	25.0	90.2	25.0	22.5	80.5	22.5	2.5	9.7	2.5
(参考)23年度:合計4回	111.7	159.9	100.0	92.7	116.8	82.6	19.0	43.1	17.5
(参考)22年度:合計9回	265.0	67.6	37.2	224.5	19.1	10.6	40.5	48.5	26.6
(参考)21年度:合計6回	128.2	184.8	100.0	111.2	150.1	79.6	17.0	34.7	20.4

注:四捨五入の関係で計が一致しない場合がある。

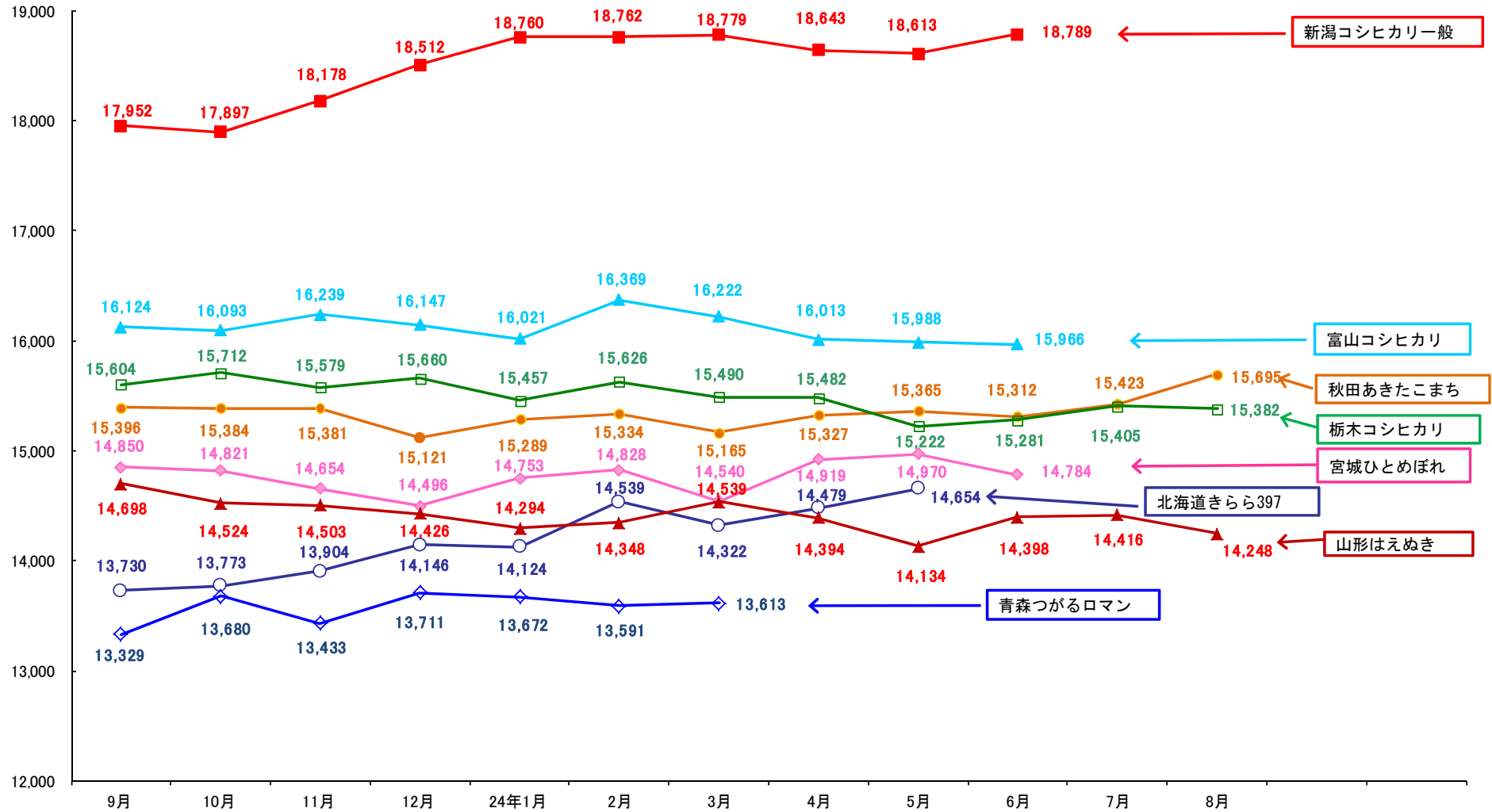
8 米の相対取引価格の月別全銘柄平均の推移（平成18年産～23年産）



資料:農林水産省「米穀の取引に関する報告」
 注1: 価格には、運賃、包装代、消費税相当額が含まれている。
 2: 産地銘柄ごとの価格を前年産検査数量ウェイトで加重平均した価格である。
 3: 全銘柄平均価格は、当年産の7月から翌年10月までの数量を累計し算出した価格である。

9 産地品種銘柄別相対取引価格の推移(平成23年産)

(円/60kg)



資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」
 (注意) 価格には、運賃、包装代、消費税相当額が含まれている。

10 平成23年産米の相対取引価格(平成24年8月分)

平成23年産米の相対取引価格(出荷業者)(速報)
(平成24年8月)

(単位:円/玄米60kg)

産地	品種銘柄	地域区分	24年8月 ①	参考			
				24年7月 ②	対前月比 ①/②	23年8月 ③	対前年比 ①/③
青森	まっしぐら		13,675	13,790	99%	11,246	122%
岩手	ひとめぼれ		14,566	14,629	100%	12,596	116%
秋田	あきたこまち		15,695	15,423	102%	12,547	125%
山形	はえぬき		14,248	14,416	99%	11,858	120%
福島	コシヒカリ	中通り	14,044	13,865	101%	-	-

産地	品種銘柄	地域区分	24年8月 ①	参考			
				24年7月 ②	対前月比 ①/②	23年8月 ③	対前年比 ①/③
茨城	コシヒカリ		15,611	15,700	99%	-	-
栃木	コシヒカリ		15,382	15,405	100%	12,575	122%
愛知	あいちのかおり		13,931	-	-	-	-
香川	ヒノヒカリ		15,061	14,916	101%	11,772	128%
熊本	ヒノヒカリ		15,165	15,134	100%	-	-
全銘柄平均価格			15,541	15,643	99%	13,283	117%

資料:農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注:1)相対取引価格は、ア 全国出荷団体、イ 年間の玄米仕入数量が5,000トン以上の道県出荷団体等、ウ 年間の直接販売数量が5,000トン以上の出荷業者と卸売業者等の主食用の相対取引契約(数量と価格が決定した時点を基準としている。)の価格(運賃、包装代、消費税相当額を含む1等米の価格。)であり、その契約数量を用いて加重平均した価格である。

その際、新潟、長野、静岡以東(東日本)の産地品種銘柄については受渡地を東日本としているものを、富山、岐阜、愛知以西(西日本)の産地品種銘柄については受渡地を西日本としているものを加重平均している。

2)また、相対取引価格は、個々の契約数量に応じて設定される大口割引等の割引などが適用された価格であり、実際の引取状況に応じて等級及び付加価値等(栽培方法等)の価格調整が行われることがある。

3)産地品種銘柄は、ア 22年産の公表対象産地品種銘柄が存在した道府県における当該産地品種銘柄、又は、イ ア以外の道府県における22年産の検査数量の最も多かった1品種銘柄、のうち、月1,000トン以上の取引があったものである。

4)全銘柄平均価格は、報告対象産地品種銘柄ごとの前年産検査数量ウェイトで加重平均した価格である。

5)23年8月は22年産の価格である。

11 米の流通の状況(16～22年産米)

【生産段階】

(単位:万トン)

年産	生産量													
			出荷・販売		農家消費等		その他							
							加工用米等		もち米		減耗			
16	872	100.0%	636	72.9%	180	20.6%	56	6.4%	12	1.4%	27	3.1%	17	1.9%
17	906	100.0%	653	72.1%	183	20.2%	62	6.8%	13	1.4%	31	3.4%	18	2.0%
18	855	100.0%	631	73.8%	165	19.3%	59	6.9%	15	1.8%	27	3.2%	17	2.0%
19	871	100.0%	632	72.6%	174	20.0%	65	7.5%	17	2.0%	31	3.6%	17	2.0%
20	882	100.0%	636	72.1%	172	19.5%	64	7.3%	16	1.8%	30	3.4%	18	2.0%
21	847	100.0%	624	73.7%	161	19.0%	62	7.3%	16	1.9%	29	3.4%	17	2.0%
22	848	100.0%	592	69.8%	173	20.4%	73	8.6%	24	2.8%	32	3.8%	17	2.0%

【出荷・販売段階】

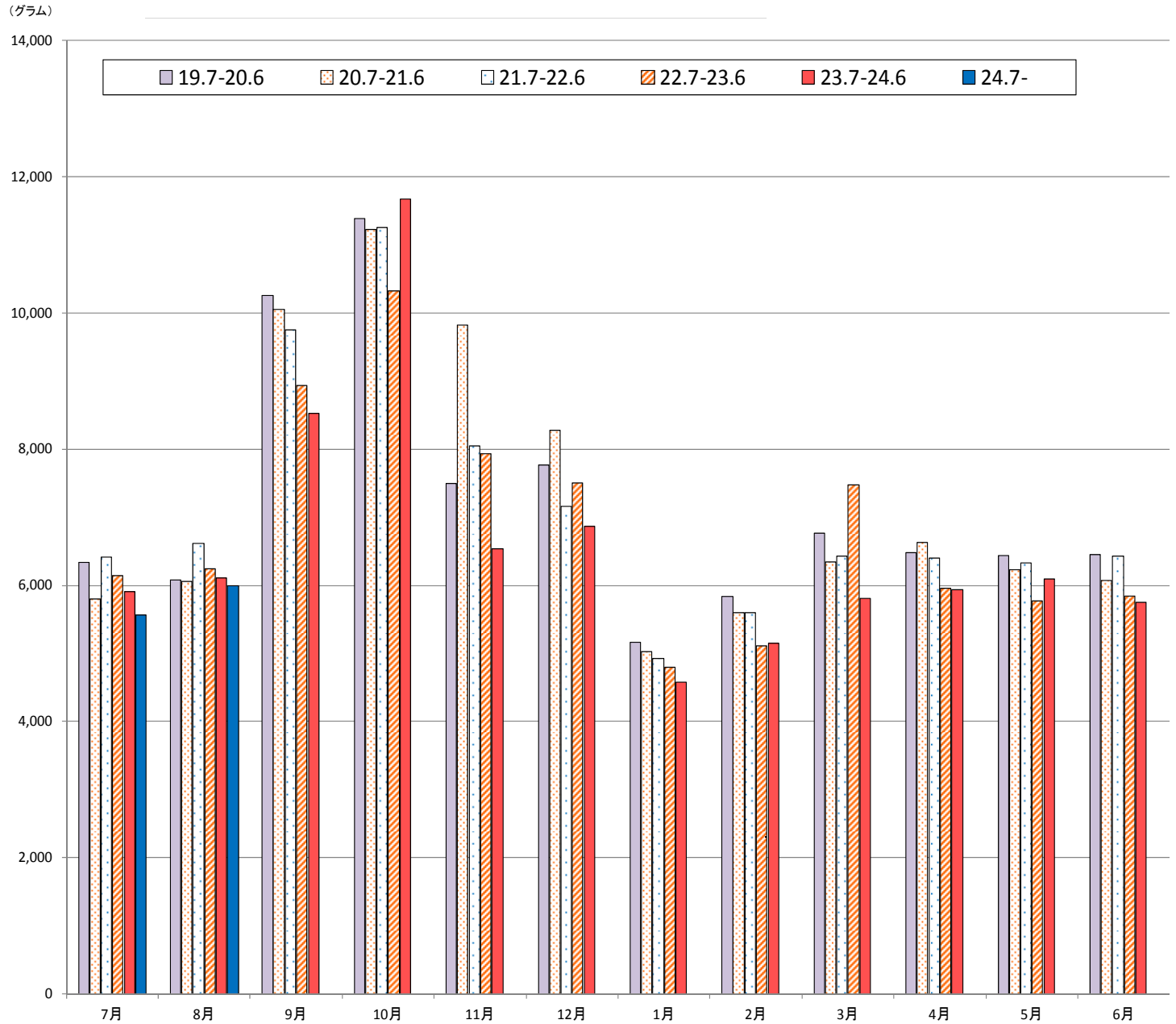
年産	出荷・販売															
			農協						全集連系業者						生産者 直接販売等	
			販売委託		直販		販売委託		直販							
16	636	72.9%	390	44.7%	350	40.1%	40	4.6%	20	2.3%	7	0.8%	12	1.4%	226	25.9%
17	653	72.1%	405	44.7%	352	38.9%	53	5.8%	22	2.4%	8	0.9%	13	1.4%	226	24.9%
18	631	73.8%	384	44.9%	320	37.4%	64	7.5%	21	2.5%	9	1.1%	13	1.5%	227	26.5%
19	632	72.6%	378	43.4%	308	35.4%	70	8.0%	21	2.4%	9	1.0%	13	1.5%	232	26.6%
20	636	72.1%	390	44.2%	303	34.4%	87	9.9%	21	2.4%	8	0.9%	14	1.6%	224	25.4%
21	624	73.7%	372	43.9%	294	34.7%	78	9.2%	22	2.6%	7	0.8%	15	1.8%	230	27.2%
22	592	69.8%	369	43.5%	285	33.6%	84	9.9%	21	2.5%	6	0.7%	15	1.8%	202	23.8%

資料:資料:農林水産省「作物統計」、「生産者の米穀現在高等調査」(22年産は「生産者の米穀在庫等調査」)、「農林業センサス」、「米穀の取引に関する報告」及び全国出荷団体調べ等を基に推計。
 注:1)平成21年産までの推計に用いた「生産者の米穀現在高等調査」と22年産の推計に用いた「生産者の米穀在庫高等調査」では調査対象農家の定義が異なる(前者は10a以上稲を作付(子実用)している農家、後者は販売目的の水稻の作付面積が10a以上の販売農家が対象)ことから、22年産では推計手法を変更している。
 2)生産段階には、生産段階には、このほか、①集荷円滑化対策による区分出荷米(17年産8万トン、20年産米10万トン)、②品質低下に伴う歩留り減(22年産米10万トン)がある。
 3)ラウンドの関係で、計と内訳が一致しない場合がある。

12 家庭における米購入量等の推移①

(単位: グラム)

	月間購入量	対前年同月比	年間累計	対前年比
H19.7	6,330	0.8%	86,450	2.5%
H19.8	6,080	0.3%		
H19.9	10,250	14.8%		
H19.10	11,390	▲6.0%		
H19.11	7,500	4.0%		
H19.12	7,770	▲0.4%		
H20.1	5,160	4.7%		
H20.2	5,840	2.1%		
H20.3	6,770	6.1%		
H20.4	6,480	1.9%		
H20.5	6,430	1.9%		
H20.6	6,450	3.2%		
H20.7	5,800	▲8.4%	87,050	0.7%
H20.8	6,050	▲0.5%		
H20.9	10,050	▲2.0%		
H20.10	11,210	▲1.6%		
H20.11	9,820	30.9%		
H20.12	8,270	6.4%		
H21.1	5,020	▲2.7%		
H21.2	5,590	▲4.3%		
H21.3	6,340	▲6.4%		
H21.4	6,620	2.2%		
H21.5	6,220	▲3.3%		
H21.6	6,060	▲6.0%		
H21.7	6,410	10.5%	85,300	▲2.0%
H21.8	6,610	9.3%		
H21.9	9,750	▲3.0%		
H21.10	11,240	0.3%		
H21.11	8,040	▲18.1%		
H21.12	7,150	▲13.5%		
H22.1	4,920	▲2.0%		
H22.2	5,600	0.2%		
H22.3	6,420	1.3%		
H22.4	6,400	▲3.3%		
H22.5	6,330	1.8%		
H22.6	6,430	6.1%		
H22.7	6,140	▲4.2%	81,960	▲3.9%
H22.8	6,240	▲5.6%		
H22.9	8,930	▲8.4%		
H22.10	10,310	▲8.3%		
H22.11	7,920	▲1.5%		
H22.12	7,500	4.9%		
H23.1	4,790	▲2.6%		
H23.2	5,110	▲8.8%		
H23.3	7,470	16.4%		
H23.4	5,950	▲7.0%		
H23.5	5,760	▲9.0%		
H23.6	5,840	▲9.2%		
H23.7	5,910	▲3.7%	78,930	▲3.7%
H23.8	6,110	▲2.1%		
H23.9	8,520	▲4.6%		
H23.10	11,670	13.2%		
H23.11	6,540	▲17.4%		
H23.12	6,870	▲8.4%		
H24.1	4,580	▲4.4%		
H24.2	5,150	0.8%		
H24.3	5,810	▲22.2%		
H24.4	5,930	▲0.3%		
H24.5	6,090	5.7%		
H24.6	5,750	▲1.5%		
H24.7	5,560	▲5.9%		
H24.8	5,990	▲2.0%		
			11,550	▲3.9%



資料: 総務省「家計調査」(二人以上の世帯)

12 家庭における米購入量等の推移②(1世帯当たりの購入量の推移(米・パン・めん類))

(単位: ㌔、%)

	米		パン		めん類	
		対前年比		対前年比		対前年比
平成21年	85,110	-	45,599	-	36,615	-
平成22年	83,010	▲2.5	45,443	▲0.3	37,000	1.1
平成23年	80,570	▲2.9	45,257	▲0.4	36,926	▲0.2
平成21年1月	5,020	▲2.7	3,521	▲2.5	2,855	8.1
2月	5,590	▲4.3	3,496	▲3.0	2,688	▲4.0
3月	6,340	▲6.4	4,032	▲2.1	3,122	4.4
4月	6,620	2.2	3,946	▲0.7	2,851	▲0.0
5月	6,220	▲3.3	4,095	4.4	3,185	6.3
6月	6,060	▲6.0	3,826	▲0.4	3,074	▲2.8
7月	6,410	10.5	3,848	4.9	3,457	2.1
8月	6,610	9.3	3,755	6.9	3,125	▲0.6
9月	9,750	▲3.0	3,880	12.0	2,530	▲0.9
10月	11,240	0.3	3,939	7.5	2,879	7.3
11月	8,040	▲18.1	3,736	6.1	2,994	6.1
12月	7,150	▲13.5	3,568	0.1	3,742	2.0
平成22年1月	4,920	▲2.0	3,673	4.3	2,966	3.9
2月	5,600	0.2	3,484	▲0.3	2,778	3.3
3月	6,420	1.3	4,119	2.2	3,135	0.4
4月	6,400	▲3.3	3,989	1.1	2,937	3.0
5月	6,330	1.8	3,954	▲3.4	3,000	▲5.8
6月	6,430	6.1	3,790	▲0.9	3,038	▲1.2
7月	6,140	▲4.2	3,850	0.1	3,503	1.3
8月	6,240	▲5.6	3,612	▲3.8	3,268	4.6
9月	8,930	▲8.4	3,663	▲5.6	2,534	0.2
10月	10,310	▲8.3	3,979	1.0	2,914	1.2
11月	7,920	▲1.5	3,700	▲1.0	3,020	0.9
12月	7,500	4.9	3,680	3.1	3,906	4.4
平成23年1月	4,790	▲2.6	3,656	▲0.5	2,875	▲3.1
2月	5,110	▲8.8	3,573	2.6	2,763	▲0.5
3月	7,470	16.4	4,088	▲0.8	3,447	10.0
4月	5,950	▲7.0	3,878	▲2.8	2,776	▲5.5
5月	5,760	▲9.0	4,015	1.5	2,958	▲1.4
6月	5,840	▲9.2	3,804	0.4	3,149	3.7
7月	5,910	▲3.7	3,640	▲5.5	3,911	11.6
8月	6,110	▲2.1	3,724	3.1	3,122	▲4.5
9月	8,520	▲4.6	3,653	▲0.3	2,583	1.9
10月	11,670	13.2	3,866	▲2.8	2,686	▲7.8
11月	6,540	▲17.4	3,700	0.0	2,893	▲4.2
12月	6,870	▲8.4	3,669	▲0.3	3,695	▲5.4
平成24年1月	4,580	▲4.4	3,505	▲4.1	2,821	▲1.9
2月	5,150	0.8	3,744	4.8	2,699	▲2.3
3月	5,810	▲22.2	4,035	▲1.3	2,889	▲16.2
4月	5,930	▲0.3	3,870	▲0.2	2,831	2.0
5月	6,090	5.7	3,917	▲2.4	2,986	0.9
6月	5,750	▲1.5	3,741	▲1.7	3,132	▲0.5
7月	5,560	▲5.9	3,704	1.8	3,557	▲9.1
8月	5,990	▲2.0	3,736	0.3	2,996	▲4.0

資料: 総務省「家計調査」(二人以上の世帯)

12 家庭における米購入量等の推移③（1世帯当たりの支出金額の推移(食料)）

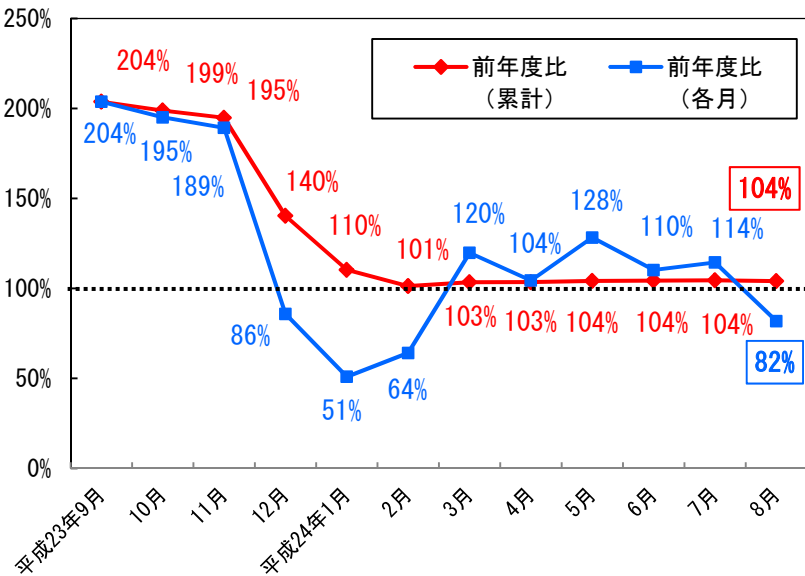
(単位:円、%)

	食料		米		パン		めん類		スパゲッティ		カップめん		菓子類		調理食品		外食		ハンバーガー	
		対前年比		対前年比		対前年比		対前年比		対前年比		対前年比		対前年比		対前年比		対前年比		対前年比
12年	887,453	—	38,920	—	27,209	—	17,060	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
13年	861,235	▲3.0	37,045	▲4.8	26,062	▲4.2	16,649	▲2.4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
14年	854,518	▲0.8	35,292	▲4.7	26,455	+1.5	16,754	+0.6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
15年	838,918	▲1.8	35,903	+1.7	26,871	+1.6	16,473	▲1.7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
16年	835,676	▲0.4	35,801	▲0.3	27,307	+1.6	16,121	▲2.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
17年	824,394	▲1.4	31,676	▲11.5	25,974	▲4.9	15,197	▲5.7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
18年	891,439	+8.1	30,968	▲2.2	26,560	+2.3	16,294	+7.2	1,021	—	2,952	—	75,463	—	101,905	—	159,676	—	3,506	—
19年	901,601	+1.1	30,680	▲0.9	27,097	+2.0	16,415	+0.7	1,082	+6.0	2,941	▲0.4	76,160	+0.9	100,910	▲1.0	164,860	+3.2	3,785	+8.0
20年	905,556	+0.4	31,229	+1.8	28,127	+3.8	17,986	+9.6	1,357	+25.4	3,015	+2.5	78,970	+3.7	98,567	▲2.3	164,894	+0.0	4,046	+6.9
21年	896,129	▲1.0	30,496	▲2.3	28,966	+3.0	18,423	+2.4	1,400	+3.2	3,293	+9.2	80,403	+1.8	98,469	▲0.1	161,314	▲2.2	4,352	+7.6
22年	884,768	▲1.3	28,610	▲6.2	28,177	▲2.7	18,047	▲2.0	1,280	▲8.6	3,351	+1.8	78,861	▲1.9	99,866	+1.4	160,230	▲0.7	4,476	+2.8
23年	872,802	▲1.4	27,428	▲4.1	28,318	+0.5	18,234	+1.0	1,285	+0.4	3,468	+3.5	76,797	▲2.6	101,930	+2.1	154,545	▲3.5	4,501	+0.6
22年1月	69,851	+0.4	1,815	▲0.4	2,255	▲0.3	1,369	+1.6	103	▲3.7	287	+8.3	6,395	+2.8	7,786	+2.4	14,723	+5.4	423	+14.9
2月	65,125	▲0.6	1,980	▲3.6	2,231	▲3.6	1,281	+1.2	106	▲6.2	289	+10.7	6,388	▲0.6	7,320	+0.9	11,510	+1.6	339	+11.9
3月	72,571	▲1.2	2,248	▲6.2	2,518	▲2.2	1,447	▲1.3	124	▲11.4	316	+6.4	7,189	▲2.2	7,925	+1.5	13,422	+1.0	418	+2.7
4月	69,356	▲1.7	2,259	▲7.3	2,468	▲2.0	1,364	▲4.1	116	▲7.9	271	+4.2	6,199	▲2.4	7,641	+0.7	12,413	+0.1	351	+7.7
5月	74,946	▲2.6	2,282	▲4.7	2,507	▲4.3	1,504	▲8.1	112	▲13.2	262	▲0.4	6,727	▲3.2	7,920	+1.8	14,786	▲1.7	354	▲4.3
6月	70,176	▲2.4	2,285	+1.7	2,402	▲1.4	1,612	▲2.5	98	▲10.9	223	▲2.6	5,919	▲2.9	7,597	+1.9	11,738	▲4.8	284	▲9.3
7月	74,628	▲0.2	2,183	▲6.1	2,365	▲3.0	1,895	▲3.7	97	▲11.8	222	▲5.5	6,410	±0.0	8,834	+2.2	13,235	+0.8	397	+10.9
8月	78,692	▲1.7	2,114	▲12.6	2,250	▲4.8	1,680	▲0.6	101	▲20.5	247	▲5.0	7,547	▲1.4	8,802	+1.7	15,535	▲3.1	498	+8.0
9月	70,544	▲2.4	2,927	▲8.2	2,237	▲3.1	1,280	+0.4	104	▲6.3	258	▲1.9	5,806	▲5.3	7,970	+0.5	12,306	▲6.6	337	+1.8
10月	73,492	▲0.1	3,305	▲12.1	2,381	▲1.7	1,384	▲0.6	111	+2.8	302	+3.8	5,972	▲1.0	8,485	+2.6	12,916	+1.6	343	▲8.0
11月	71,295	▲2.0	2,692	▲4.4	2,268	▲2.4	1,368	▲4.3	100	▲6.5	302	+2.7	5,898	▲3.2	8,135	+0.2	12,813	▲2.3	335	▲4.0
12月	94,091	▲0.6	2,521	▲4.3	2,294	▲3.8	1,863	▲0.7	108	▲3.6	371	▲1.1	8,411	▲3.1	11,451	+0.8	14,831	+0.3	396	+0.8
23年1月	68,124	▲2.5	1,585	▲12.7	2,192	▲2.8	1,342	▲2.0	91	▲11.7	300	+4.5	6,078	▲5.0	7,892	+1.4	14,073	▲4.4	439	+3.8
2月	65,146	+0.0	1,788	▲9.7	2,193	▲1.7	1,258	▲1.8	105	▲0.9	280	▲3.1	6,252	▲2.1	7,648	+4.5	11,558	+0.4	347	+2.4
3月	70,744	▲2.5	2,544	+13.2	2,567	+1.9	1,675	+15.8	143	+15.3	445	+40.8	6,633	▲7.7	8,194	+3.4	11,271	▲16.0	343	▲17.9
4月	68,368	▲1.4	2,018	▲10.7	2,501	+1.3	1,345	▲1.4	111	▲4.3	253	▲6.6	6,220	+0.3	7,970	+4.3	11,806	▲4.9	332	▲5.4
5月	72,572	▲3.2	1,943	▲14.9	2,518	+0.4	1,510	+0.4	111	▲0.9	263	+0.4	6,570	▲2.3	8,027	+1.4	13,703	▲7.3	368	+4.0
6月	69,241	▲1.3	1,955	▲14.4	2,319	▲3.5	1,631	+1.2	102	+4.1	240	+7.6	5,663	▲4.3	7,670	+1.0	11,615	▲1.0	306	+7.7
7月	75,050	+0.6	2,053	▲6.0	2,313	▲2.2	2,058	+8.6	102	+5.2	226	+1.8	6,333	▲1.2	9,071	+2.7	13,359	+0.9	391	▲1.5
8月	77,241	▲1.8	2,129	+0.7	2,309	+2.6	1,646	▲2.0	98	▲3.0	258	+4.5	7,250	▲3.9	8,887	+1.0	14,968	▲3.6	435	▲12.7
9月	69,496	▲1.5	2,754	▲5.9	2,268	+1.4	1,282	+0.2	103	▲1.0	273	+5.8	5,782	▲0.4	7,987	+0.2	12,021	▲2.3	352	+4.5
10月	73,052	▲0.6	3,805	+15.1	2,428	+2.0	1,307	▲5.6	108	▲2.7	290	▲4.0	5,835	▲2.3	8,371	▲1.3	12,891	▲0.2	407	+18.7
11月	70,532	▲1.1	2,257	▲16.2	2,333	+2.9	1,367	▲0.1	106	+6.0	276	▲8.6	5,821	▲1.3	8,260	+1.5	12,731	▲0.6	355	+6.0
12月	93,539	▲0.6	2,603	+3.3	2,390	+4.2	1,825	▲2.0	106	▲1.9	367	▲1.1	8,363	▲0.6	11,971	+4.5	14,603	▲1.5	428	+8.1
24年1月	69,105	+1.4	1,707	+7.7	2,307	+5.2	1,313	▲2.2	99	+8.8	290	▲3.3	6,183	+1.7	8,106	+2.7	14,227	+1.1	433	▲1.4
2月	67,024	+2.9	1,873	+4.8	2,342	+6.8	1,273	+1.2	102	▲2.9	292	+4.3	6,426	+2.8	8,069	+5.5	11,342	▲1.9	329	▲5.2
3月	73,367	+3.7	2,120	▲16.7	2,577	+0.4	1,385	▲17.3	119	▲16.8	329	▲26.1	7,133	+7.5	8,422	+2.8	13,709	+21.6	382	+11.4
4月	70,347	+2.9	2,180	+8.0	2,473	▲1.1	1,352	+0.5	118	+6.3	274	+8.3	6,198	▲0.4	8,308	+4.2	12,503	+5.9	360	+8.4
5月	78,876	+8.7	2,225	+14.5	2,464	▲2.1	1,439	▲4.7	117	+5.4	247	▲6.1	6,601	+0.5	8,232	+2.6	13,556	▲1.1	311	▲15.5
6月	69,871	+0.9	2,177	+11.4	2,382	+2.7	1,554	▲4.7	105	+2.9	239	▲0.4	5,953	+5.1	7,852	+2.4	12,041	+3.7	298	▲2.6
7月	73,734	▲1.8	2,115	+3.0	2,348	+1.5	1,871	▲9.1	99	▲2.9	224	▲0.9	6,304	▲0.5	9,104	+0.4	13,143	▲1.6	381	▲2.6
8月	77,611	+0.5	2,276	+6.9	2,297	▲0.5	1,623	▲1.4	99	+1.0	233	▲9.7	7,415	+2.3	9,071	+2.1	15,291	+2.2	417	▲4.1

13 23年産米の流通状況について

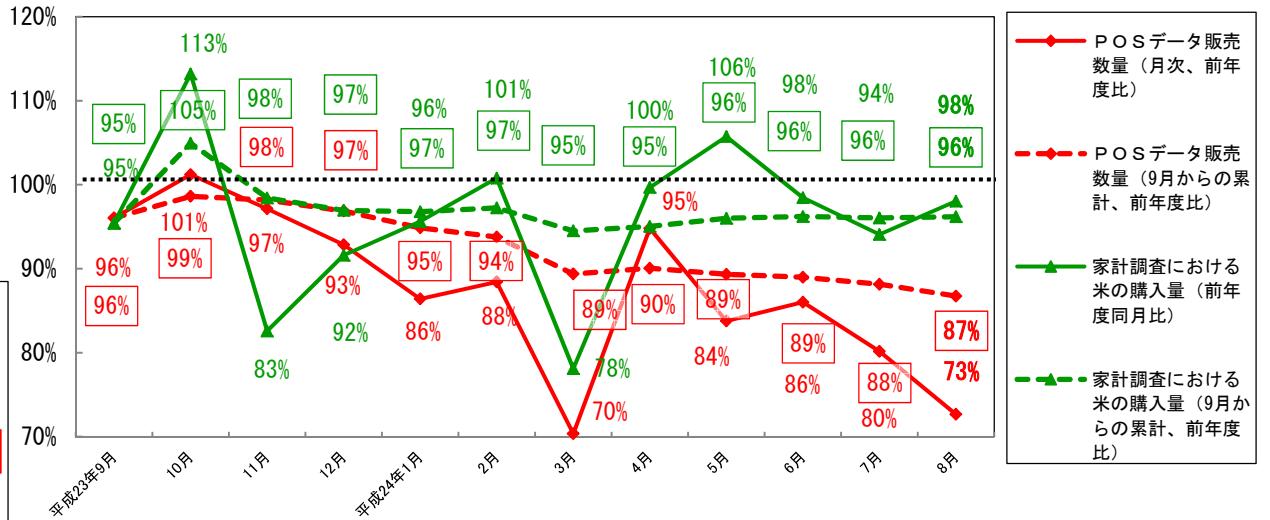
- 平成23年産米について農林水産省に報告のあった相対取引数量を見ると、出来秋には前年度と比較して非常に活発な調達がなされていたが、その反動で年明けは取引が減少、総量で見ると対前年を若干上回る状況。
- また、POSデータによると、数量ベースで見ると食品スーパー等における米の販売が家計調査における米の購入数量を上回るペースで減少している傾向が示唆される。
- 一方で、米穀機構が実施している米の消費動向調査では、インターネットを通じて米を購入する消費者の割合が増加している。

○ 23年産米相対取引数量の前年度との比較



○ 小売段階における米の販売の前年度比較

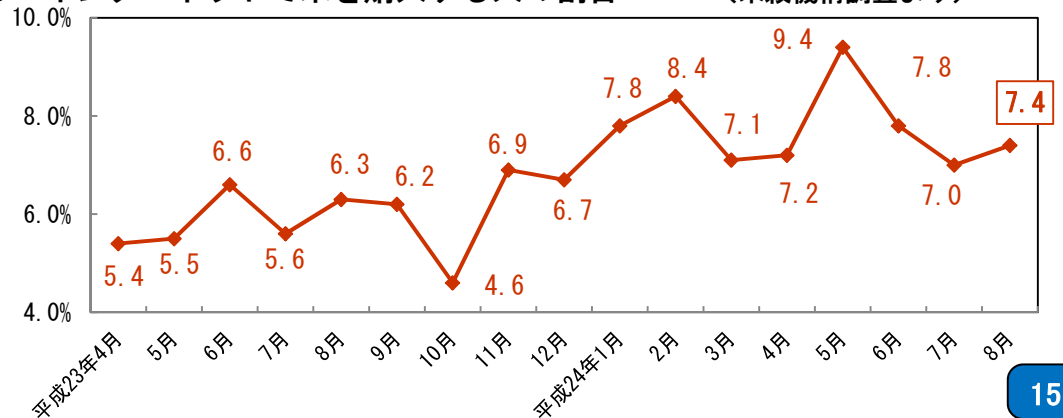
※囲みなしの数値は各月の前年同月比、囲み付きの数値は9月からの累計の前年比を示している。



(注1) POSデータについては、(株)KSP-SPが提供するPOSデータに基づいて農林水産省が作成。(店舗数は比較期間中同一となるよう調整を行っている。)
 (注2) 平成23年3月に東日本大震災が発生していることに留意。

○ インターネットで購入する人の割合

(米穀機構調査より)



(農業予算に関する4大臣会合(2010年12月2日)資料)

1. 基本的な方針

今後の包括的経済連携の進展も見据え、経済連携の推進と農業の再生を両立するための方策について、「食と農林漁業の再生推進本部」において検討することとしている。

平成23年度から、農業の体質強化、6次産業化に重点を置いた一步を踏み出すことが強いメッセージとして伝わるような施策内容とすべきである。

そのため、以下の課題に重点的に取り組むこととし、具体的な制度や予算の詳細について、本論点整理の方向性を踏まえ関係省庁で検討を行うこととする。

なお、全体を通じ、予算については、厳しい財政事情に配慮し、「財政運営戦略」と整合的に検討を行うものとする。

(中略)

3. 戸別所得補償制度

(1) 上記(2)の規模拡大加算の検討と併せ、需要に応じた効率的な農業生産、財源の制約等の観点から、他の加算措置や助成内容等について、精査する。

(2) 流通業者による値引き・投げ売り等による価格下落を防止するため、需給状況を適切に反映した情報提供のあり方をはじめ、農協等の流通業者及び生産者等の販売努力を促す方策を検討する。

(3) 戸別所得補償制度は、生産者のみならず、国産農作物の安定的な供給等を通じて、消費者・家計に恩恵をもたらすことを目的とした政策であることを、国民に分かりやすく説明する。

(後略)

(参考2) 東日本大震災を踏まえての災害時に対応した備蓄の検討

○「食糧部会における米の備蓄運営についての議論の整理(平成23年8月)」(抜粋)

3 備蓄米放出の基本的なプロセス

(中略)

災害時における備蓄米放出(販売)については、東日本大震災における首都圏の一時的な供給不足等を踏まえ、別途検討。なお、災害時の放出については食糧法令において直接的な言及はないものの、販売業者だけではなく地方公共団体への販売など、従来から災害時の放出を想定した規定が置かれており、これに基づき実施。

精米備蓄実証事業 (25年度概算要求額:30(25)百万円(特会))

《背景》

- ・東日本大震災発生後に、被災地から応急食料としての精米の供給要請
- ・大消費地である首都圏において一時的に米の品薄状態が発生

《課題》

- ・大規模災害への備えとして、一定量の精米のストックが必要
- ・大規模災害発生直後に大都市圏で発生が想定される需要増加・精米供給能力の低下に対応する体制の確保が必要

《実証事業の概要》

- 平成24年度より、政府が買い入れる備蓄米の一部を活用して試験的に精米形態での備蓄を実施
 - ・備蓄量：500トン（東日本大震災発生～4月20日までの被災地向精米供給量に相当）
 - ・実施主体：政府所有米穀の販売等業務の委託を受けた民間団体等
- 併せて食味等分析試験及び販売実証(非主食として販売)を行うことにより、今後のより効率的な精米備蓄の可能性を検証

- 加工用米は、従来から民間同士の契約に基づき取り組まれており、今後とも酒造用等の高価格帯、米菓用・焼酎用等の低価格帯ともに、民間取引の下で安定的に供給されていくことが基本。
- しかしながら、平成23年7月の米トレサ法の施行により国内産米のニーズが高まっている一方で、平成23年産主食用米の価格上昇に伴い、平成24年産加工用米についても需要者への販売提示価格が上昇しており、安価な原材料用米穀を取り扱う米菓・味噌・焼酎用等の低価格帯需要への供給不足が見込まれる状況。
- このため、今般、やむを得ず平成24年産加工用米の供給不足分に対して備蓄米(18年産)を販売することとしたところ。

【加工用米の取組状況】

- 加工用米の取組数量は、22年産は過剰気味だったことから、集荷団体等が23年産生産量を約6万トン程度減少させたところ。
 しかしながら、23年産においては需要に対して不足が生じたところ。このため、24年産においては、集荷団体等が生産量の増加に努め、23年産よりも3万トン程度増加する見込み。

加工用米取組数量	22年産	23年産	24年産(見込み)
	21万トン	15万トン	18万トン

- 取引価格(うるち米)については、23年産は概ね8,750円/60kg程度だったが、24年産においては、11,000円/60kg程度に上昇。

【24/25年の備蓄運営(24年7月基本指針)】

- 平成24年産米の備蓄米買入契約数量は8万トン。
- 平成24年6月末の備蓄量は、適正備蓄水準(100万トン)程度の95万トン。
- これを踏まえ、24年産米の買入契約数量8万トンの範囲内で飼料用・援助用等に販売。

※ 現在の備蓄運営においては、年産更新の際の備蓄米の販売先として、飼料用・援助用のほか、加工用低価格帯需要の不足分に対しても販売していく考え。

平成24年6月末備蓄量	A	95
平成24年産買入契約数量	B	8
平成24/25年備蓄米代替供給量	C	4
平成24/25年飼料用・援助用等販売量	D	8
平成25年6月末備蓄量	E=A+B-C-D	91

加工用米については、高価格帯、低価格帯それぞれの用途ごとに、需要に見合った生産が行われ、安定的に需要者に供給されるよう、取組体制の確立が重要。